

地域別勉強会助成制度実施報告

## ミニ小祝塾がスタート!

⑦中部ブロック編 九州ブロック編

## Report

■中部ブロック編  
オーチャード・ファーマーズ・  
イン・ナガノ (以下O.F.N)  
(2月5日)

5日に開催した小祝塾には、O.F.Nメンバー全員参加、主題は“果樹の健全な生育と施肥のポイント、プラス技術”。O.F.N組合員は果樹栽培についての基本的な土壌管理はだいたい理解していた訳ですが、今回の勉強会は、次のステップの説明が少々理解しづらい点も多く、今まで何年も自分で栽培管理してきた、気づかないこと、分からないことが、小祝先生の説明で分かった気がします。

私たち生産者が求めるところは、まずどうしたら良い果物を多く取れるか、そしてどう販売するか、が基本です。今、消費者から求められていることは、安全・安心そしておいしいということ。それを確立するには、たいへんなことと思いますが、今回の勉強会では、それを実践できる技術・指導が多く含まれたものでした。具体的には、

“果物が肥大するか”

→生産者が良くなる

“味が良くなるか”

→消費者が喜ぶ

“病気に強くなるか”

→土作り

“安全・安心な果物”

→自主基準

ということ。

これからも私たちは減農薬・減化学肥料で栽培を確立して消費者に喜ばれる組合でありたいと思います。このような勉強会を次回も期待します。

(報告：古田道寛さん)

## ゆうき伊賀の里 (2月6日)

ミニ小祝塾：AM9：00～PM4：00

農産部会の地域別勉強会助成制度を利用した勉強会の報告も7回目となりました。今回が初の開催となった中部ブロック、小祝さんを講師とした勉強会にたいへん意欲的に取り組んでいる九州ブロックと、この2ブロックからの報告です。

参加者：ゆうき伊賀の里 (福広、岡田、木村、凡井夫妻)、ななほし会 (大宮、野呂、百合)、萩本・亀田有機農法研究会 (亀田)、らでいっしゅぼーや (村上)

午前中は各生産者の圃場を見学した。一部圃場では未熟有機物と強アルカリ性肥料による根腐れ、窒素、苦土肥料不足による葉の黄変や生育不良、排水不良による根腐れ等が見られた。午後は小祝氏による話を聞いた。

今回は初めての参加者も多くいたので原点に戻って基礎編を学んだ。土の物理性として、保水性、通気性、有機物のバランスが取れていること。化学性として土壌分析を行ない、作物に合った施肥を行なう。また、各微量要素の働きの説明、生物性として、有効微生物の堆肥やぼかし肥料の施肥で病害虫に強い作物を作ること、などだ。

少人数であったので質問も多く、自分の畑での問題点などが良く分かり、実のある勉強会であったと思う。

(報告：福広博敏さん)



ゆうき伊賀の里での勉強会、圃場の見学

■長野県有機生産者連合  
(2月9日)

佐久市勤労者福祉センターの会議室で小祝先生による土作り勉強会が開かれました。立春を過ぎたとはいえ、今年例年になく雪の多い冬でした。路面の凍結など、会場への足の心配もあ

りましたが、大勢の人が参加され、有意義な一日を過ごしました。

一年程前から長野有機独自の主催で、何回かお話を伺う機会がありましたが、その都度新しい知識を得ることができ、関心の度合いが益々深まっております。農業を今までのような経験のみでなく、小祝先生のように化学的、生物学的視点から見つめることにより、農業に対する考え方が大分変わってくるのではないかと思います。

何回も参加された方でも過去に受けた講義を再び聞くことによって、「ああそうだった」と納得したり、その上に付加された新しい知識に感心したり、学校生活に戻ったようです。「安心な野菜は健康な土作りから」そんな農業を目指して次回は、もっと多くの方の参加をおすすめします。

(報告：松村泰子さん)

■九州ブロック編  
戸馳有機米研究会 (2月20日)

戸馳環境改善センターにおいて10時～17時の予定でしたが、途中道路の積雪のため小祝先生の到着が遅れ昼からの勉強会となりました。

当初、当会の実情及び施肥量などのお話しを申し上げ、水田の稲ワラの腐敗具合などを見ていただいた上で小祝先生のお話を伺う予定にしておりましたが、現場に合わせた改善点を、ということで座学となりました。私たちの場合は、非常に窒素の施肥量が多く、これでは絶対食味が上がらない、窒素を控え微生物を利用し水田を過剰な酸欠状態にしない、酵母菌・光合成菌などを利用して硫化水素の発生を抑えるように、とのことでした。

また、稲の根については赤味を帯びているのが普通なのですが、この赤味